

平成 25 年度第 1 回石狩浜海浜植物保護センター運営委員会会議録

◇日時：平成 25 年 5 月 21 日（火）10 時 00 分～

◇会場：石狩浜海浜植物保護センター

◇出席：石山優子、瀬野一郎（副会長）、北條静香、松島肇、安田秀子（会長）、萬谷優子

事務局：藤岡修一（センター長）、内藤華子（主査）、藤彰矩（主事）

◇傍聴者：2 名

◇議題

1. 平成 25 年度事業について
2. 石狩浜ハマナス再生プロジェクトについて
3. その他

◇資料

1. 平成 25 年度事業計画
2. 石狩浜ハマナス再生プロジェクト概要・行程

◇議事

【事務局】（資料 1 説明）

補足説明

昨年秋の運営委員会（H24.第 3 回）で、平成 25 年度事業計画としてあげていた、「いしかり海の『環』^わ発見事業」は、助成金申請が通らなかったため、予算化しなかった。しかし、予算の必要ない部分での事業の支援、推進は行っていく予定。例えば昨年作成した DVD の貸出、上映など。

学校からの石狩浜学習の依頼については、平成 25 年度は現時点で、石狩翔陽高校、石狩中学校、藤女子大学、石狩小学校、札幌市栄北小学校からの依頼を受けている。

【萬谷・北條】 10／26，27（土・日）開催予定の図書館まつりのテーマが、サケ祭り 50 周年記念にちなんで「川と海からの贈り物」に設定された。保護センターでも資料や情報は持っていると思うので、協力をお願いする場面が出てくるかもしれないが、その際はお願いしたい。

【事務局】 了解。

【松 島】 2－4）石狩浜学習の取り組み校として、今年初めて札幌の小学校から申請

があったとのこと。良い傾向と思う。これは何か特別な働きかけをしたのか。

【事務局】 特段働きかけは行っていない。ホームページに内容を掲載し、プログラム活用に係る流れも掲載しているので、現場の先生は、活用しやすいものと思われる。

【石 山】 ホームページのアクセス数はどれくらいか。学校での取り組み事例を web へアップし、プログラムイメージをわかりやすくするとよいと思う。

【事務局】 月 1 5 0 0 件程度のアクセスがある。事例の web へのアップはしていきたい。

【石 山】 小中学校の利用は、石狩小、石狩中学校はあるが、そのほか内陸部の学校の利用はあるのか。

【事務局】 学校のカリキュラムに組み込んでいただいているのは石狩中学校のみ。 教育委員会通じて石狩浜学習の情報は学校へ提示しているが、学校ごとに、また担当の先生によって、活用に温度差がある状況。

【北 条】 学校ごとの方針等ありすべての学校に取り組んでもらうのは限界があるかと思うが、活用を訴えて行く必要はある。定着して活用する学校が増えていけばベスト。

【安 田】 2－5）海浜植物花壇を縮小するということが、ボランティアの手で続けられないものか。

【事務局】 タネの配布事業も定着し、家庭や身近で親しんでもらうためのタネの配布事業が浸透してきたため、縮小を検討。公園管理者で管理していただける部分については、公園管理者と検討を要するが、ボランティアさんのみでの対応となると、苗が踏まれるなど不都合が生じた場合、市での対応が十分できないことが想定されるため、撤退も検討するが、関わっていただいている方と協議していきたい。

【安 田】 3の保全対策について、条例改正後の動きなど、現況と今後をお話いただきたい。

【事務局】 現在は周知期間で、7 月から改正条例が施行する。7 月までの周知期間には簡易な看板を 15 か所程度設置し、7 月の保護区指定後は、大きな看板を各区

画に 1 本は立てる予定。監視員による柵の補修も行っている。

弁天・親船地区指定の第一の目的はバギー車の乗り入れを制限すること。植物採集については、条例の条文では、「植生の維持に影響を及ぼす植物採取」を禁止行為としているが、地元の人が昔から親しんできたハマボウフウ採集は、マナーある適量採集であれば禁止されない。

何年間か様子を見て、ハマボウフウの数が今以上に減少するなどの状況が見られれば、規制内容を見直すことも検討する。

問題となるのは、植生の維持に影響が及ぶ破壊行為となる車の乗り入れだ。今回指定の地区は過去 10 年以上柵を設置し、現状では乗り入れが少ない状況だが、指定区域外の三線浜へかけてのエリアは、植生上のバギー車走行が多く課題である。今後、段階的に条例による保護地区指定を進めることを考えている。

【石 山】 ハマボウフウの採集は札幌からの来訪者が多いのか、地元が多いのか把握していないが、これまでハマボウフウ採りを楽しんできた地元の人への周知が重要と考える。

【事務局】 周知看板は 15 か所程度現地に設置しているので、現地へ来れば、保護地区になることはわかる。
徐々に浸透していくと考えている。
地元の人と話す機会があったが、減っていることは認識されていて、採ってはいけないようにすべき、との声もあった。

【安 田】 石狩市内は広報での周知はされているが、札幌圏へ、新聞等で周知したほうがいいのではないかなと思う。

【松 島】 石狩浜環境保全連絡会議の開催状況は？

【事務局】 年 1 回、案件があれば 2 回開催する。今回の指定にあたっては、石狩浜環境保全連絡会議で協議を重ね合意のもと、保護区指定にかかる手続きを進めてきた。今後は、親船地区より西側の新港までの地域（通称三線浜）の保全が課題であるが、海岸管理者の札幌建設管理部は、海岸法による規制はできず、砂浜の安全対策は北警察署等、植生保全対策は石狩市で、という見解。
植生域の保全については、市の占用による段階的な保護区化を進めることで一致しているが、市としては、柵の補強など、十分な対策が講じられてからでないと、占用はできない状況。市による保護区化には時間がかかる可能性

もある。

2. ハマナス再生プロジェクトについて

【事務局】 （資料2説明）

【松 島】 補足する。整地後のデザインについては、日本造園学会北海道支部が、実践企業の方のアドバイスをいただきながら学生が学ぶ中で構想図を作成し、維持管理、活用も含めてどのようなことができるかを、提案する予定。

また、「ハマナス里親プロジェクト」のネーミングについて、「里親」という言葉への違和感を持つ人も多いので、替えたほうがいいのかもしい。

【萬 谷】 個人によってとらえ方に違いがあるので、違和感を持たず、イメージわきやすいと感じる方も多いと思うが。「ハマナス育成プロジェクト」ではどうか？

【事務局】 極力替わる言葉に置き換えたい。替わる言葉があれば、お知らせいただきたい。

【萬 谷】 はまなすフェスティバル実行委員会には市民団体はどのような団体が入っているのか。

【事務局】 いしかり海辺ファンクラブ、石狩浜自然案内人、ハマナスを用いて6次産業化に取り組むハマナスプロジェクト、ふるさと自然塾など。

【安 田】 デザインワークショップに係り、造園学会の関わりは良い形と思う。成果発表が10月に行われるそうだが、石狩でも同様に実施されたい。

【松 島】 検討したい。地元の人意見は随時とりいれていきたい。事前学習の段階や、8月に予定しているワークショップでは、地元の人たちの意見を聞く場があるのが理想と考えている。そのような設定ができるようにしていきたい。

【安 田】 ハマナス里親プロジェクトについて、移植後の維持管理イメージについて説明いただきたい。

【事務局】 整地、移植後の雑草の生育状況を見てからでないといけないが、大がかりな作業が必要になるのであれば、はまなすの丘景観保全作業を一回は隣接地

で行うなど、対応を検討していく。

移植を行った団体が除草等にも関わっていくのが理想だが、実際は難しい面も多いと思う。ただ、環境学習やイベントの中に組み込んで、多様な主体の関わりで行っていきたい。

【松 島】 ハマナス再生地の維持管理への子供たちの関わりは大切と考える。移植するだけでなく、維持、活用するためにどの程度手をかけなければならないか、を実感することも大切。移植、維持管理、活用と段階通しての参加を促すしくみができるとういと思う。

【萬 谷】 苗移植の際に、維持管理、活用まで関わっていただくよう、最初に働きかけることも大切。

3. その他

【事務局】 海浜植物保護センターの今後の運営のあり方について、ざっくばらんにご意見をいただきたい。現状として、毎年事業普及員を募集するにあたって、適任者不在の年もある。安定した運営のために、普及員枠含めたソフト部分の運営を、将来的にアウトソーシングできないかと考えている。

【安田・北條】 各団体の代表による委員会的な集まりを設け、意見を出し合い提言するような形ができればよいと考える。その委員会が運営の核となっていくとうい。

【安田・石山】 石狩浜での活動時に起こりうる自然災害への対策として、防災体制の確認が必要。

【事務局】 野外活動時の保護センターとの連絡体制（活動者の携帯電話番号）をきちんと確認しておく必要がある。

本町地区の避難所はボランティアのみなさんにも周知する（→石狩小）
次回開催は秋の予定。

以上

確認しました。平成25年6月20日
石狩浜海浜植物保護センター
運営委員会会長 安田秀子